



いけがみ・あきら
73年、NHKに記者として入局。94年から05年まで『週刊こどもニュース』のお父さん役として親しまれる。現在、独立してフリーのジャーナリスト。

日本銀行は発券銀行でもある

私たちがいつも使っているお札には、「日本銀行券」と印刷されています。
お札（紙幣）は、日本銀行が発行しているのですね。
この日本銀行券は、どのように世の中を回っているのでしょうか。

お札が信用できない国も

今年の夏、私はあるアジアの国を取材で歩いたのですが、買い物でお札を払うと、受け取った店員は、どこでも必ずお札が本物かどうか、手触りや透かしをチェックしました。それくらい、その国では二セ札が多く、国民がお札をあまり信用していないのです。

私たちは、日本のお札を使うとき、「これ、本物かなあ」と心配することはありません。それを当たり前だと思っていたのですが、実は大変なことなのです。

日本銀行にはいろいろな役割がありますが、私たちに一番身近なのは、やはり「発券銀行」ということです。

私たちが使っているお札には、「日本銀行券」と印刷されています。日本銀行の「券」なのです。といっても、製造しているのは日本銀行ではなく、国立印刷局。お札の表の下の方に、小さく「国立印刷局製造」と書いてあります。

国立印刷局は、大蔵省印刷局

財務省印刷局 国立印刷局と名前が変わってききましたから、いま日本で流通している日銀券には、この三種類の名前が印刷されたものがあります。「大蔵省印刷局」と書かれたものには、もう滅多に目にかかりませんが。

日本銀行は、国立印刷局に製造代金を払ってお札を買い取ります。製造代金は一枚あたり一五、一六円くらいです。これがアメリカのドル紙幣ですと、一枚が四、六セントですから、日本のほうがコストをかけて高品質の紙幣をつくらしているのです。

「お札を発行する」とは？

では、日銀は、お札（紙幣）をどうやって発行しているのでしょうか。

日銀は「銀行にとっての銀行」でもあり、全国の金融機関が日銀に当座預金口座を持っています。金融機関がこの口座からお金を引き出すとき、日銀から日銀券を受け取ります。このとき日本銀行券が発行されたことになるのです。

ということは、日本銀行券が日銀の中にある段階では、「ただの紙」ということもあります。

いったん日銀の外に出た日銀券は、お金として通用します。法律で、お金として通用することが定められてもいます。これを「強制通用力」といいます。

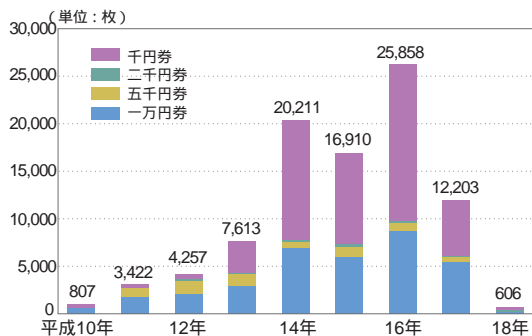
こうして全国の金融機関に対して発行された日銀券は、企業や個人が金融機関から引き出すことで、世の中に出回ります。回り回ってやがて私たちの元にもやってきます。そのままが家に長期滞在してくれるのですが、すぐにまた家を出てしまいます。「金は天下の回りもの」です。

お札は世の中を回る

では、世の中に、どれくらいのお金が出回っているのか。平成十八年三月末現在で、日銀券の発行残高は七五兆円です。紙幣の枚数では一二六・四億枚になります。最も多い紙幣は一万円券で、全体の五四・一％を占めています。一番高額な紙幣の発行枚数が一番多

21 NICHIGIN 2006 NO.7

偽造券発見枚数の推移（警察庁調べ）



（注1）平成18年は5月末時点の計数。

（注2）平成18年5月までの新しい1銀行券の偽造券発見枚数の累計は765枚。

ここでは、日本銀行の銀行券偽造防止に向けた取り組みについて、読者の皆さんに知って頂くために、もう少し詳しく説明します。

1 なぜ偽造は防がないといけない？

私たちは、毎日の生活の中で、商品を買ったり、貯蓄したり、税金を納付したりする際に、銀行券を使っています。銀行券には、一定の経済的な価値があり、私たちの日常生活になくてはならないものです。しかし、紙で出来た銀行券に、金貨や銀貨のような物質的な価値がある訳ではありません。こうした取引が可能であるのは、皆さんが、「この紙には、一万円の価値が

あるとみなそうじゃないか」と信頼していることに依っています。

もし偽造券が出回って、皆さんが「この一万円と書いてある紙は、二セモノに見えるから受け取れない」と言い始めたら、経済活動は一気に止まります。私たちの暮らしを守るために、日本銀行では、銀行券の偽造を防ぎ、国民の皆様が安心して銀行券を使って頂ける環境を整備することを、重要な使命としています。

日本銀行は、二〇〇四年十一月に新しいデザインの銀行券（一万円券、五千円券、千円券）の発行を開始しました。もう、皆さんの生活にすっかり馴染みになったことと思います。実は、今回の銀行券のデザインの一新（「改刷」といいます）も、偽造を防止するためのものなのです。

二〇〇一年の秋頃から、精巧な偽造券の発生が急増しました。パソコンやカラーコピー機等を使ってより精巧な偽造券が作られるようになったのです。とくに、自動販売機や券売機を欺くことを狙った千円券の偽造券が増えました。今回の改刷は、このような状況を踏まえ、パソコン関連機器で容易に偽造券を作れないようにする、ATMや自動販売機等が偽造券を確実

に検知する、そして、人の手や目で偽造券を容易に見分ける、という三つを主に狙ったものです。

2 偽造券を見破る三つの方法

偽造券を使うことは、銀行券を偽造することと同様、罪になります。受け取ってしまった偽造券を使うことは、決してできません。従って、銀行券を受け取る際におかしいと感じたら、銀行券を「さわって」、「透かして」、「傾けて」みてください。以下、この偽造を見破る三つの方法別に、銀行券の主な偽造防止技術を紹介します。

（一）さわって確認できる技術

深凹版印刷

銀行券の用紙は、通常のコピー用紙と異なる独特の手ざわりやこしがあります。また一部の文字や肖像には、表面のインキが盛り上がる凹版印刷や、一段と盛り上がる深凹版印刷という技術が用いられていて、指でさわるとざらつきが感じられます。深凹版印刷の技術は、一万円券では表面左部の「き万円」という文字に用いられて

います。

また、深凹版印刷の技術は、目の不自由な方のための識別マークとしても用いられています。銀行券の表面右下には、各券種、異なるマークが用いられています。



深凹版印刷



識別マーク
（深凹版印刷）

（二）透かして確認できる技術

すかし・すき入れパターン

銀行券には、従来から、光に透かすと肖像が確認できる「すかし」が入っていました。日本のすかしの技術はとても高度であり、偽造を見分けるうえで大切なポイントとなっています。新しい銀行券には、このすかしに加え、光に透かすと肖像の左肩あたりに縦棒が確認できる「すき入れパターン」が入っています。縦棒の数は、一万円券では三本、五千円券では二本、千円券では一本となっています。すき入れパターンは、その上から印刷が施されているため、従来のすかしよりも、パソコ

ンやカラーコピー機等で更に表現しにくい技術となっています。



すかし



すき入れバーパターン

(三) 傾けて確認できる技術

ホログラム

一万円券と五千円券の表面左下あたりにキラキラ光って見えるものです。角度を変えると、画像の色や模様が三つのパターンに変化して見えます。一万円券では、中心部の模様には、額面金額である「1000」と日本銀行の「日」の文字を圖案化したマークが配され、背景部には日本の国花である「桜」がちりばめられています。ホログラムの外周部分には、微細な文字で「NIPPON GINKO」と印刷されています。



額面金額



「日」の字を圖案化したマーク



桜の模様

潜像模様

銀行券を傾けると、文字が浮かび上がるという技術です。一万円券では、表面左下には「10000」

の数字、裏面右上には「NIPPON」の文字が浮かび上がります。



表面

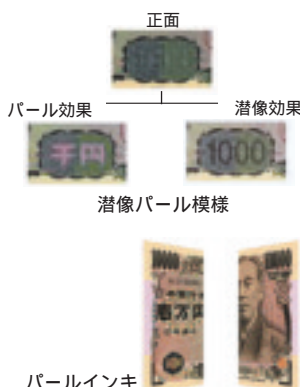


裏面

潜像パール模様・パールインキ

千円券には「ホログラム」の代わりに、「潜像パール模様」という技術が用いられています。これは、券面を傾けると、角度によって、表面左下に潜像模様による「1000」の数字と、パール光沢のある半透明な「千円」の文字が確認できる技術です。

また、いずれの券種も、銀行券を傾けると、その表面の左右余白にパール光沢のある半透明な模様が浮かび上がります。



パール効果

潜像効果

潜像パール模様

パールインキ

こうして傾けて確認できる技術は、パソコンやカラーコピー機等

による偽造の対策としてとても有効なものです。

この他、銀行券には、超細密画線や、紫外線を当てると発光する特殊発光インキ、マイクロ文字など、様々な偽造防止技術が用いられており、その水準は諸外国の銀行券と比較しても最高水準にあります。是非、お手許の銀行券をじっくりと眺めてみてください。

3 偽造を防ぐのは皆さん

これまでに、新しい銀行券の偽造券はわずかに七五枚しか発見されていません。改刷は偽造防止に大きな効果があつたわけです。

日本銀行は、この新しい銀行券の普及を図るとともに、市中から戻ってきた銀行券をチェックする

銀行券自動鑑査機についても偽造対応力を高めた新型機を導入することで、偽造券が出回らないように全力を注いでいます。また、偽造を防ぐため、関係する省庁や業界とも緊密な連携を保っています。

更に、銀行券の偽造防止は、現在では各国の通貨当局にとって共通の重要課題となっているため、日

本銀行は、G10諸国を中心とした銀行券の偽造防止技術の検討を行うためのフォーラム(CBCDG)にも参加しています。

しかし、銀行券の偽造を防ぐために最も重要なことは、皆さんに銀行券の偽造防止技術をよく理解して頂き、偽造券を決して受け取ることがないようにすることを通じ、偽造券を使い難い環境を築いていくことなのです。日本銀行では、ホームページで銀行券の偽造防止技術を紹介するとともに、銀行券の偽造防止を謳ったポスターやパンフレットを作成するなど、銀行券に関する広報活動も積極的に行っています。皆さん自身の手によって偽造を防ぐためにも、是非、一度これらをご確認頂ければと思います。



銀行券関連ポスター

